

平成 19 年 8 月 8 日

株式会社リサ・パートナーズ
代表取締役社長 井無田敦 殿
株式会社新歌舞伎座
代表取締役社長 川瀬昌弘 殿

社団法人 日本建築学会近畿支部
支部長 渡邊史夫

大阪新歌舞伎座の保存に関する要望書

拝啓 時下ますます御清祥のこととお慶び申し上げます。

平素より、本会の活動につきましてご理解とご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。さて、貴社におかれましては、大阪新歌舞伎座の劇場機能を上本町へ移転し、本建築については「再開発も含め幅広く選択肢を検討」の計画である由、拝聴しております。

ご承知のように、大阪新歌舞伎座の建物は、別紙「見解」に記しますとおり、二十世紀の日本建築界を代表する建築家・村野藤吾（1891～1984）の傑作であり、また竣工後約 50 年を経た歴史的建造物として、極めて価値の高いものです。建物の正面は唐破風を全面に配したものとなっており、屋内では階段の手すりや天井部など随所に、趣向を凝らした工芸品のようなデザインが見られます。いずれも、日本の伝統的なデザイン要素を用いながら、村野藤吾ならではの独創的なものとして造られています。また難波の御堂筋に面して建つ本建築は、長らく大阪の文化の象徴として広く社会に知られてきたものであり、多くの点から見てかけがえのない建築であります。

近年では、建築資源の有効活用の視点からも、こうした大規模な鉄筋コンクリート造建築は、構造体の補強および機能に応じた整備によって長寿命化を図り、新たに活用してゆくことが求められております。

この文化的資産ともいえる建築を保存し、活用を図るための方途を積極的にご検討頂き、貴重な文化財の保存が果たせますよう、お願い申し上げます。

なお、本会はこの建築の保存に関して、技術的支援などできます範囲でお手伝いさせていただきますと考えておりますことを申し添えます。

今後とも、この優れた由緒ある建造物と環境の保全に、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

敬具

平成 19 年 8 月 8 日

大阪新歌舞伎座についての見解

日本建築学会近畿支部
近代建築部会 主査 橋寺知子

・建物の概要

大阪市中央区難波 4 丁目 3-25 に所在する本建築は、1958 年（昭和）に竣工している。鉄筋コンクリート造地上 5 階建て地下 2 階を有する建築で、当初の建築面積は 1,993.2 平米、延べ床面積は 11,088.0 平米を有する。設計は村野・森建築事務所（村野藤吾）施工は大林組による。

竣工後、音響設備が入れ替えられるとともに、場内が改装されているが、建物の外観はほぼ竣工当時のまま残されているほか、内部の階段やその周囲、天井、劇場内の天井などは、竣工当時のまま残されている。全体としては良好に維持活用されている。

・村野藤吾の作品としての価値

村野藤吾は、1918 年に早稲田大学建築学科を卒業後、「綿業会館」（重要文化財・1931 年）などで知られる渡辺節が主宰する渡辺建築事務所に入所し、それ以来大阪を拠点とする。1929 年には大阪に村野建築事務所を開設し（1949 年に村野・森建築事務所に改称）、商業施設、オフィスビル、住宅、学校施設、美術館など、全国各地で数々の建築の設計を手掛けた。その作品は日本建築学会賞や日本芸術院賞を受賞している。また村野は、1955 年には日本芸術院会員となり、1967 年には文化勲章を受章するなど、戦前戦後を通じて日本を代表する建築家として、揺るぎない評価を得ている。日本建築家協会会長、イギリス王立建築学会名誉会員、アメリカ建築家協会名誉会員としても活躍した。

2005 年には宇部市渡辺翁記念会館（1937 年竣工）、2006 年には広島世界平和記念聖堂（1953 年竣工）が、それぞれ国の重要文化財に指定されるなど、近年、村野藤吾作品は文化財としての価値も広く認められてきた。

大阪新歌舞伎座は、日本の伝統的な要素を用いながらも、村野ならではの極めて独創的なデザインによって造られている。それは、商業的な分かりやすさと芸術性を同時に備えたものだと言える。村野は戦前、渡辺節のもとで人々に親しまれる建築のあり方を学んだ。新歌舞伎座の外観には、大阪ならではの建築観が村野によって受け継がれ、よく反映されている。同じ 1958 年に竣工した新ダイビルとともに、大阪に立地する村野作品として最も広く知られた存在である。

大阪新歌舞伎座は、数多くの村野藤吾の作品集のほとんどに掲載されており、村野の代表作として位置づけられている。また、本建築の設計図は、その草案などとともに京都工

芸繊維大学美術工芸資料館に収蔵されている。

・デザイン上の価値

大阪新歌舞伎座は、村野藤吾が施主から歌舞伎に因んだ桃山調の建物とするよう依頼され、二条城などをモデルにしながらデザインしたものである。建物の正面には頂部に大きな千鳥破風を載せ、壁面には通常一つだけ取り付けるはずの唐破風が連続的に反復しながら全体を覆っている。それは、他に類例を見ない独創的な造形であり、村野藤吾の創造力を明確に示す作品として、絶えず取り上げられている。また木造の柱梁の構成を鉄筋コンクリート構造に違和感なく置き換えることに成功している。屋内では階段の手すりに手工芸的な凝ったデザインが見られ、天井や壁面には格子や縞模様を反復して用いる。彫刻家辻晋堂の作による棟飾りも建物によく溶け込んでいる。このように歴史的な要素を用いながらも、それが全く独創的な形で現代的なデザインと融合している。それは、1950年代後半に日本の建築界で大きなテーマとなっていた、伝統を考慮した建築の、優れたあり方を示している。

・景観上の価値

大阪新歌舞伎座は、大阪のミナミの中心である難波に建つ。難波には百貨店や商業施設、大衆芸能施設などが数多く立地しているが、中でも大阪新歌舞伎座は、御堂筋に面した敷地に、大阪を代表する文化施設として、長年存在してきた。建物の斜め向いには、西洋建築の歴史様式に基づく高島屋大阪店（久野節建築事務所、1933年）があり、両者相まって大阪の文化の象徴として、戦後の難波の景観を形づくってきた。このように難波の歴史的景観を支えるという点での重要性も大きい。

